

令和6年度 千葉県立中央博物館
トピックス展

近代文学を

支えた
寺田憲

とその周辺



寺田憲肖像（寺田家所蔵）



あしび
『馬酔木』

佐佐木信綱に学び 長塚節 伊藤左千夫との親交は
遍く人の知る所也

（神崎神社 寺田憲歌碑 土屋文明書より）

令和6年
10月19日（土）～11月17日（日）

【開館時間】 9:00～16:30（最終入場 16:00）

【休館日】 10/21、10/28、11/5、11/11

【入場料】 一般 300 円、高校生・大学生 150 円

【中学生以下・65 歳以上・障害手帳をお持ちの方及び介護者 1 名】 無料

【団体料金（20 名以上）】 一般 240 円、高校生・大学生 120 円

千葉県立中央博物館

NATURAL HISTORY MUSEUM AND INSTITUTE, CHIBA

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（青葉の森公園内）

Tel. 043-265-3111（代表）

<https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>



展示紹介

千葉県香取郡神崎町で醸造業を営む寺田本家の二十代当主の寺田憲は、明治から昭和初期にかけて文学界と深く関わりをもち、自身の創作活動だけではなく多くの文人たちの後援者として日本の近代文学の発展を支えてきました。

今回の展示では寺田家に残された多くの書簡などから憲と文人たちの交流の様子を紹介します。

主な展示資料

伊藤左千夫書簡、長塚節書簡、佐佐木信綱書簡、与謝野鉄幹書簡、香取秀真書簡、牧野富太郎書簡、土屋文明書簡、夏目漱石書簡、『馬酔木』、寺田憲の机など

伊藤左千夫葉書

明治 42 年 4 月 29 日 歌集『利根川』に掲載された寺田憲の作品を「貴詠ある為に『利根川』は生命ありと存ぜられ候」と称賛している。左千夫が他人の詠を褒めた珍しい葉書。

展示をもっと
わかりやすく！

学芸員による ミュージアムトーク

10 月 19 日 (土)
11 月 9 日 (土)

神崎神社にて

(伊藤、寺田、長塚写真)

提供：山武市歴史民俗資料館

明治 38 年 6 月 6 日～9 日まで長塚節が伊藤左千夫とともに神崎の寺田憲を訪ねている。その間に神崎神社で写した一枚。左から左千夫 41 才、憲 23 才、節 26 才

牧野富太郎書簡

大正 15 年 4 月 14 日 神崎神社の御神木は通称「なんじゃもんじゃ」と呼ばれる巨木であり、その写真を憲から譲り受けた植物学者の牧野富太郎の礼状。植物研究雑誌へ発表するとしている。

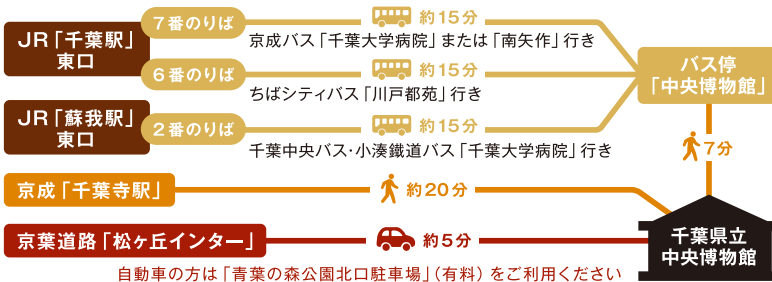
土屋文明書

伊藤左千夫のもとで学んでいた土屋文明は寺田憲から学費の支援を受けており、その関係から昭和 53 年に孫の寺田欣一氏が神崎神社に憲の歌碑を建立する際に、憲の遺歌から選歌をして揮毫している。



憲の求めにより大正 8 年に秀真が制作した鋳物作品。鴟鵂はフクロウ、卣は酒器のこと。

香取秀真作「鴟鵂卣」 寺田家所蔵



自動車の方は「青葉の森公園北口駐車場」(有料)をご利用ください

千葉県立中央博物館
NATURAL HISTORY MUSEUM AND INSTITUTE, CHIBA

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2 (青葉の森公園内)
Tel. 043-265-3111 (代表)
<https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

交通案内
ACCESS

